

## 第2章 森林（里山林）の保全状況、地域住民意識の把握

### 【サマリー】

#### 1. 対象森林と地域団体の関係

- 対象森林は、個人所有林が7割と最も多い。活動タイプ別では侵入竹林除去・竹林整備では特に個人所有林の割合が高い。
- 6割の団体が従来から活動していた森林を対象森林として申請しており、4割が今回の事業申請にあたって、今回の対象森林での活動をはじめている。
- 侵入竹林除去・竹林整備では交付金活用のため活動団体を組織化、これまで放置していた竹林での活動を新しく始めたとする団体の割合が多い。

#### 2. 地域活動団体の動機と事業への期待

- 里山林の荒廃を改善するため、交付金を活用したという団体がすべての活動タイプに共通している。
- 活動タイプ別には、侵入竹林除去・竹林整備活動で荒廃改善、森林資源利用では資機材の確保、森林空間利用では、多世代とのつながり再生、活動資金確保を動機とする割合が多い。
- 事業申請にあたっては、計画書の作成、事業活動エリアの設置、そこでの活動内容が難しいとする回答が多い。また、森林所有者の境界確定、合意取得という回答も多い。
- 事業申請にあたっては、身近な市町村、都道府県からの支援を受けた団体が多く、地域協議会の支援を受けたとする団体は少ない。
- 本事業による活動を通じて、景観の保全・修復、環境教育等による森林空間の活用、自然災害の防止に関する課題解決効果が高い。
- 本事業は、地域活動団体からたいへん必要性が高いという事業評価を受けている。

本項では、地域団体アンケート調査の結果を中心に、森林（里山林）の保全状況や地域住民の意識の把握を行う。

## 1. 対象森林と地域活動団体の関係

### 1-1 活動対象森林の種類

- ・「調査」によれば、所有区分からみた今回の事業対象林は、全体では個人有林（68.2%）が最も多く、共有林（20.9%）、都道府県有林・市町村有林（21.1%）が次いで多い。
- ・活動タイプ別にみると、侵入竹林除去・竹林整備活動では個人所有林とする回答が他の活動タイプと比べて多い（86.9%）。（図 2-1-1）

### 1-2 活動団体と森林の関係

- ・活動団体の 57.7%が、従来から活動をしていた森林を今回の対象林として設定し、事業に応募している。事業申請が契機となり今回の対象森林で活動することになったとする団体は 37.1%となっている。
- ・活動タイプ別の特徴としては、里山林保全活動、森林空間利用活動の2タイプでは、双方の組み合わせての申請も多く、従来から活動していた森林とする回答が全体傾向と比べてやや多い（それぞれ、61.9%、62.2%）。
- ・また、森林竹林除去・竹林整備活動では、今回の事業を契機に対象森林での活動をはじめたとする団体が多く、このタイプでの新規に組織した団体が多いことと合わせて、本事業が新たな主体発掘と活動形成効果をもたらしたことがうかがえる（図 2-1-2）。

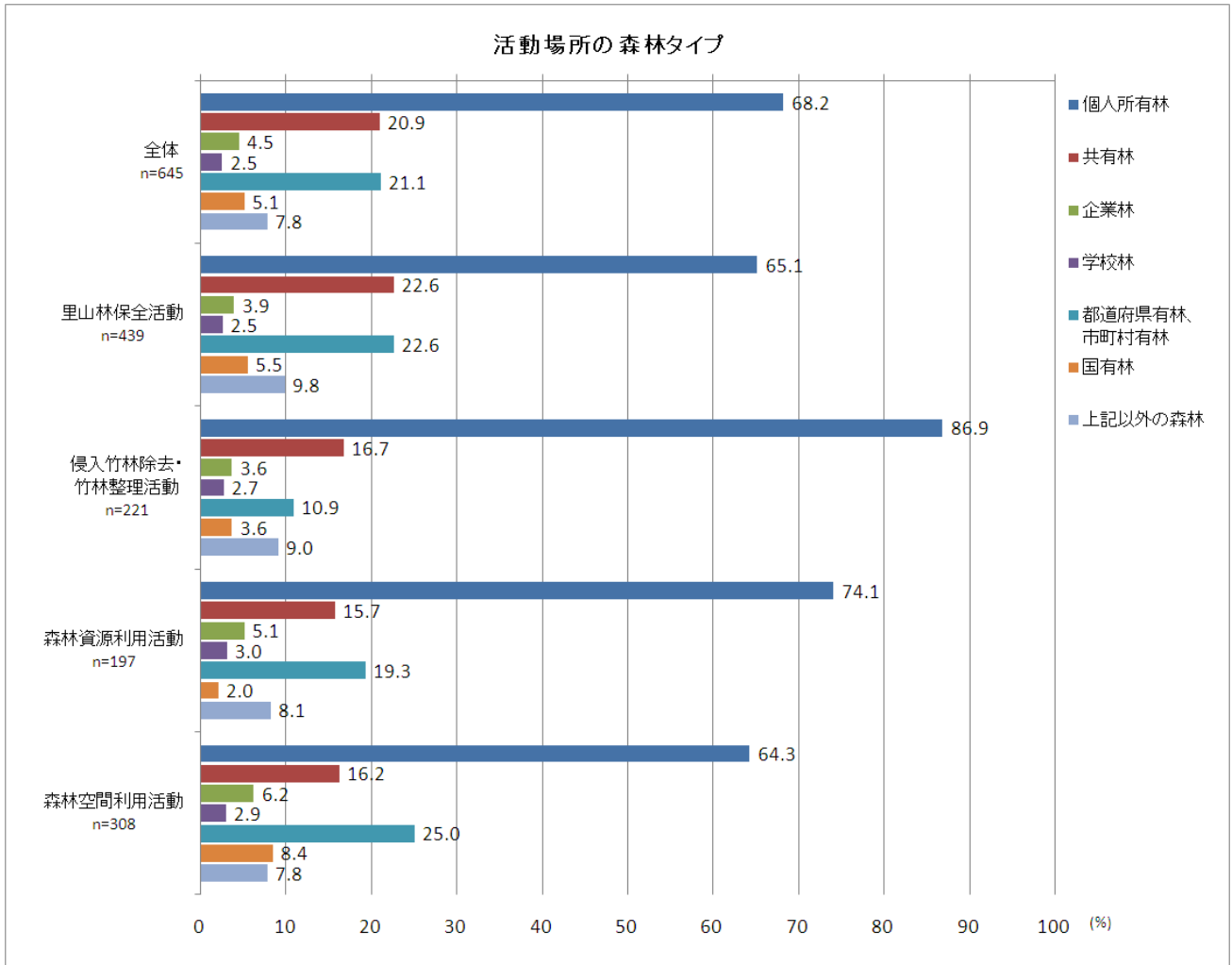


図 2-1-1 活動タイプ別にみた対象森林のタイプ(「調査」問 10①)@[複数回答]

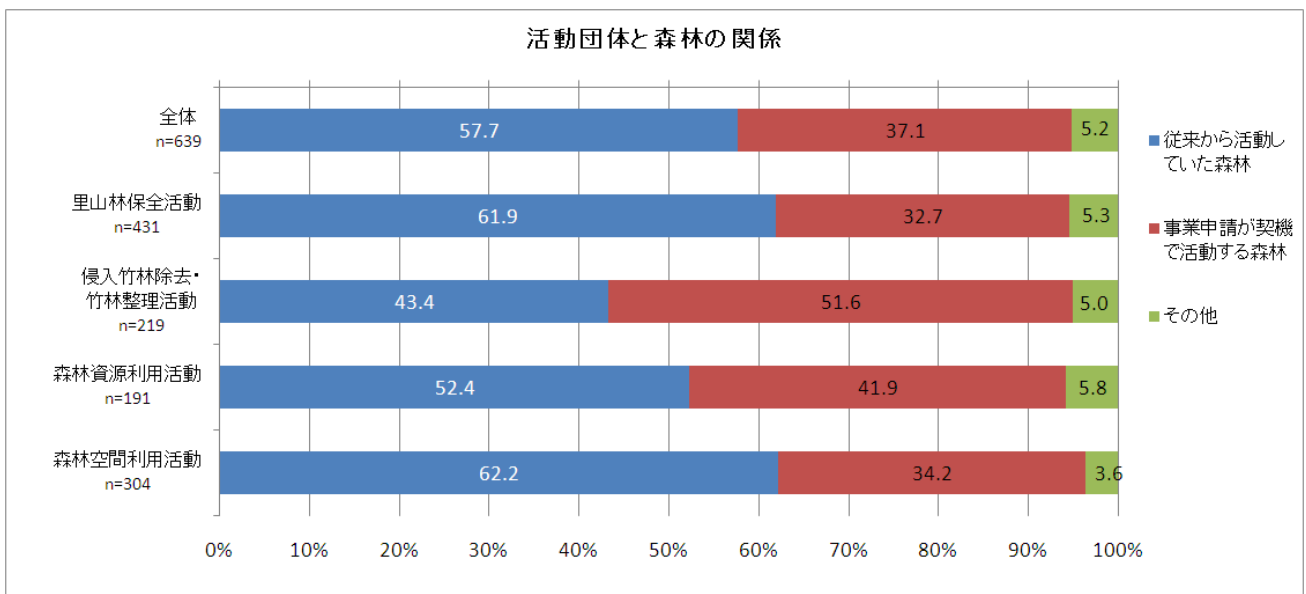


図 2-1-2 活動タイプ別にみた対象森林と団体の関係(「調査」問 10①)[単数回答]

## 2. 地域活動団体の動機と事業への期待

### 2-1 事業情報の入手状況

- ・事業に関する情報の入手先としては、都道府県からの連絡（文章・メール）、市町村からの連絡（文章・メール等）の2つが多い（それぞれ45.0%、40.1%）。活動別にみても同様の傾向にある（図2-2-1）。

### 2-2 活動の動機

- ・事業活用の動機についてみると、全体では里山林の荒廃（ナラ枯れ、マツ枯れ、侵入竹林等）の改善を図るためとする団体が最も多く（73.8%）、次いで農林や林道、集落等の地域景観の改善を図るためとする団体（34.4%）、多世代の地域住民とのつながりを再生するためという団体（33.6%）が相対的に多い回答となっている。里山林の荒廃改善については、すべての活動タイプに共通で最も多い回答となっている。
- ・活動タイプに特徴的にみられる傾向としては、侵入竹林除去・竹林整備活動では、里山林の荒廃の改善とする回答が多い（89.1%）。また、森林資源利用活動では、活動を充実させるための資機材確保（46.7%）、森林空間利用では、NPO等の組織が主体に多いということもあり、多世代の地域住民のつながり再生（47.7%）、団体の活動資金確保（42.5%）とする回答が、他の活動タイプと比べて多い（図2-2-2）。

### 2-3 事業申請にあたって難しいと感じたこと

- ・地域活動団体が、今回、事業に申請するにあたり難しかったと感じている点を見ると、活動計画の作成（47.0%）、計画対象エリアの設定の考え方（40.7%）、計画対象エリアで実施すべき活動内容の捉え方（39.0%）の3つが相対的に多い回答となっている。活動タイプ別にみても、全体と同様の傾向となっている。
- ・森林所有者の境界確定（21.1%）、森林所有者の合意取得（19.5%）も次いで多い回答となっており、活動体制を整えることと合わせて、対象森林をどう設定し、計画書に位置付けていくかの前提条件を整えるところに、難しさがあることがこれらの回答からうかがえる（図2-2-3）。

### 2-4 行政やその他からの支援状況

- ・申請にあたって、行政やその他の組織から何らかの支援を受けたかどうかについてみると、支援を受けたとする団体が71.1%で、支援を受けてないとする団体が28.9%となっている。活動団体別にみても、全体と同様の傾向にある（図2-2-4）。
- ・支援元の種類について自由回答欄から多いものを抽出すると、市町村（38.0%）、都道府県（29.1%）となっており、本来、中間支援機能の発揮が期待される地域協議会とする割合は、これら2つの組織よりも少ない（10.0%）（図2-2-5）。

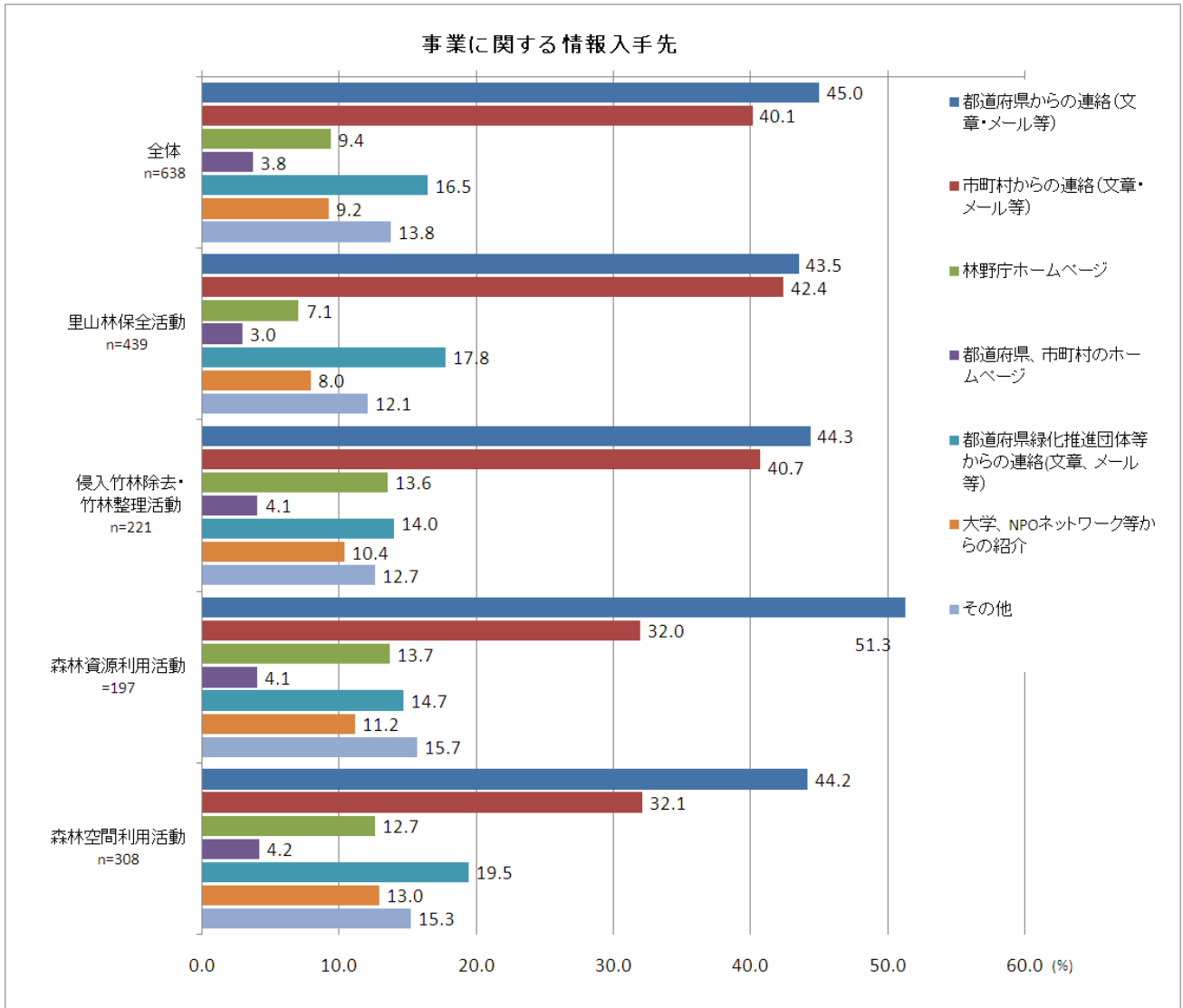


図 2-2-1 活動タイプ別みた事業に関する情報の入手先(「調査」問1)[複数回答]

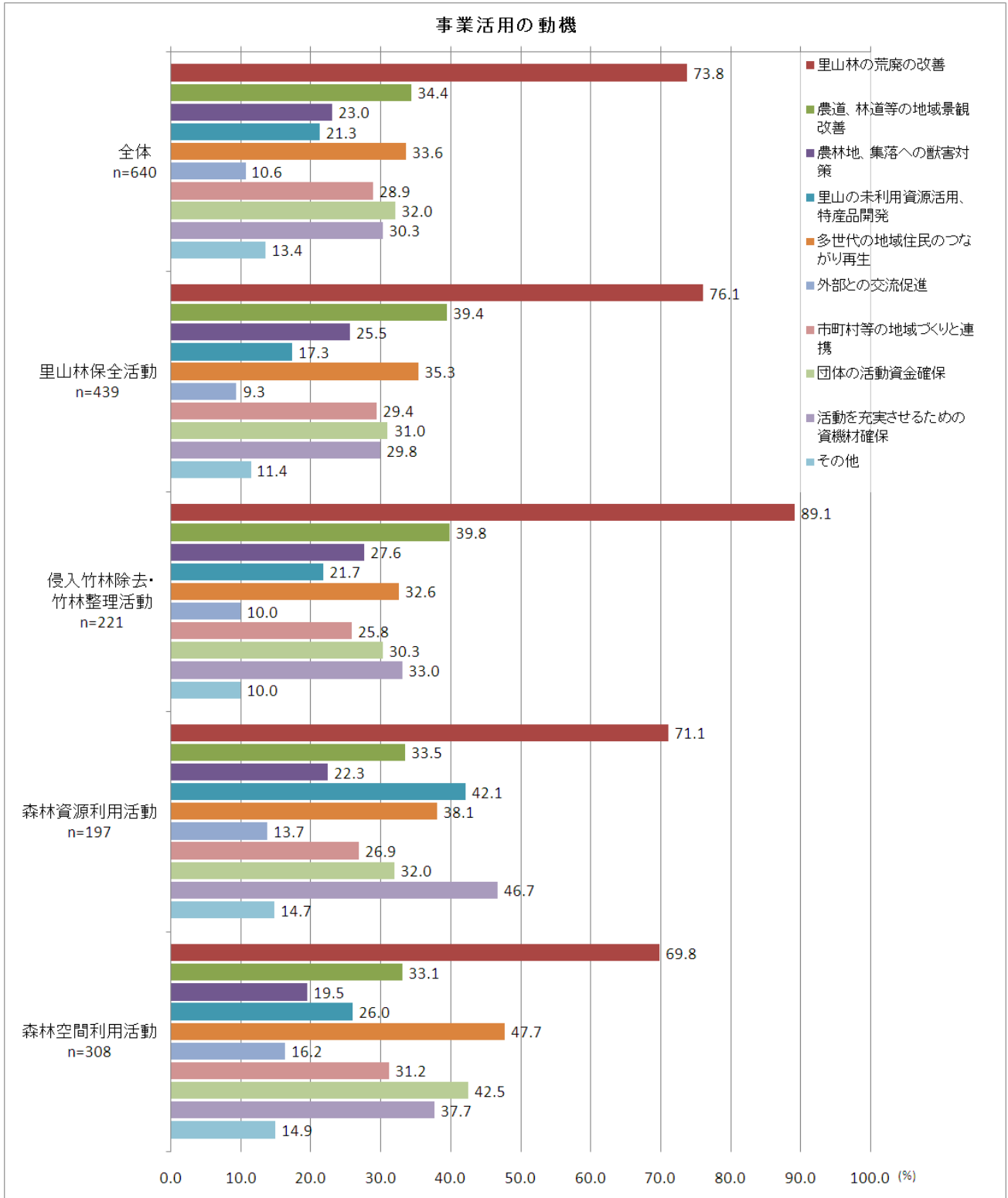


図 2-2-2 活動タイプ別みた事業活用の動機(「調査」問2)[複数回答]

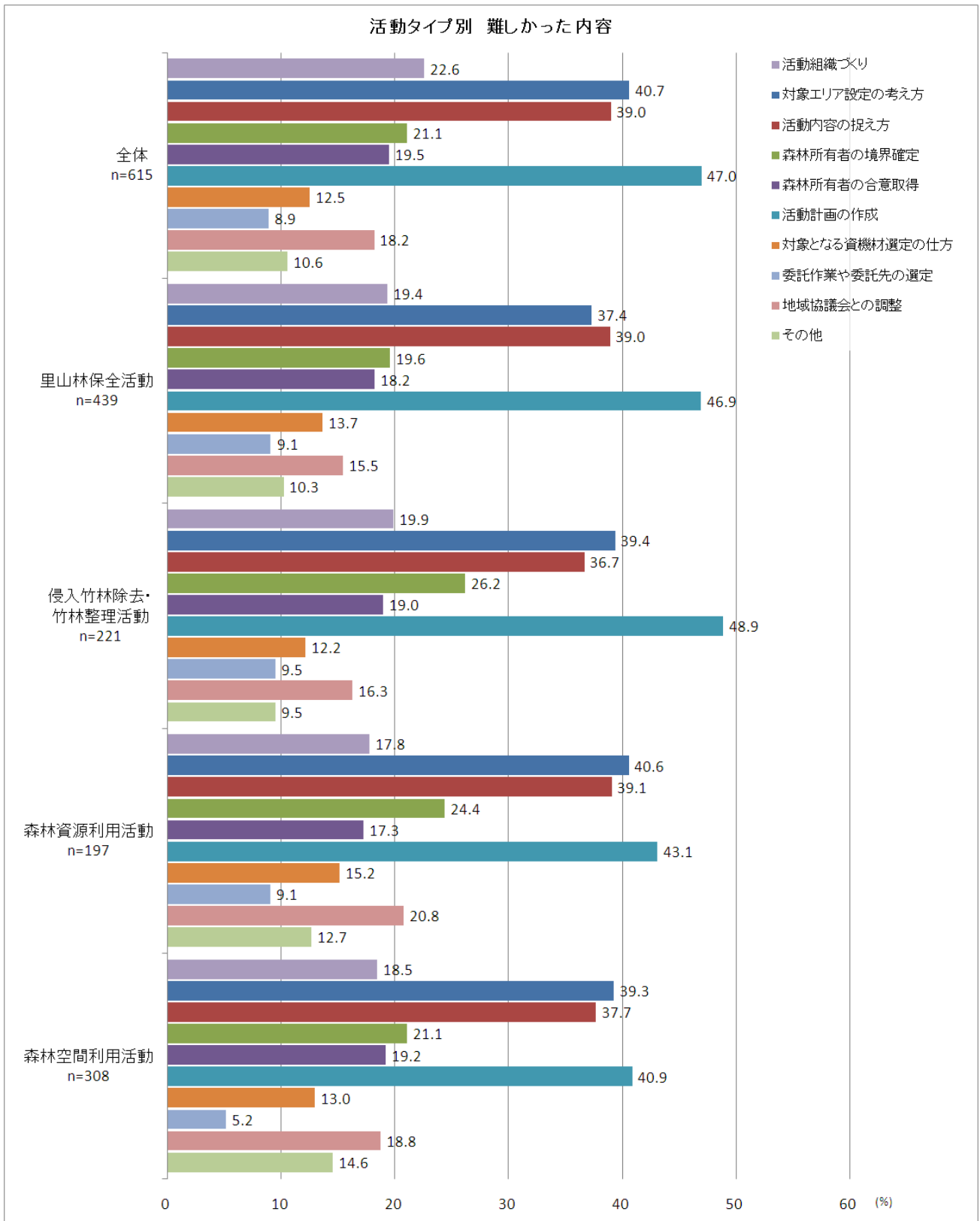


図 2-2-3 活動タイプ別にみた事業申請にあたって感じた困難(「調査」問4)[複数回答]

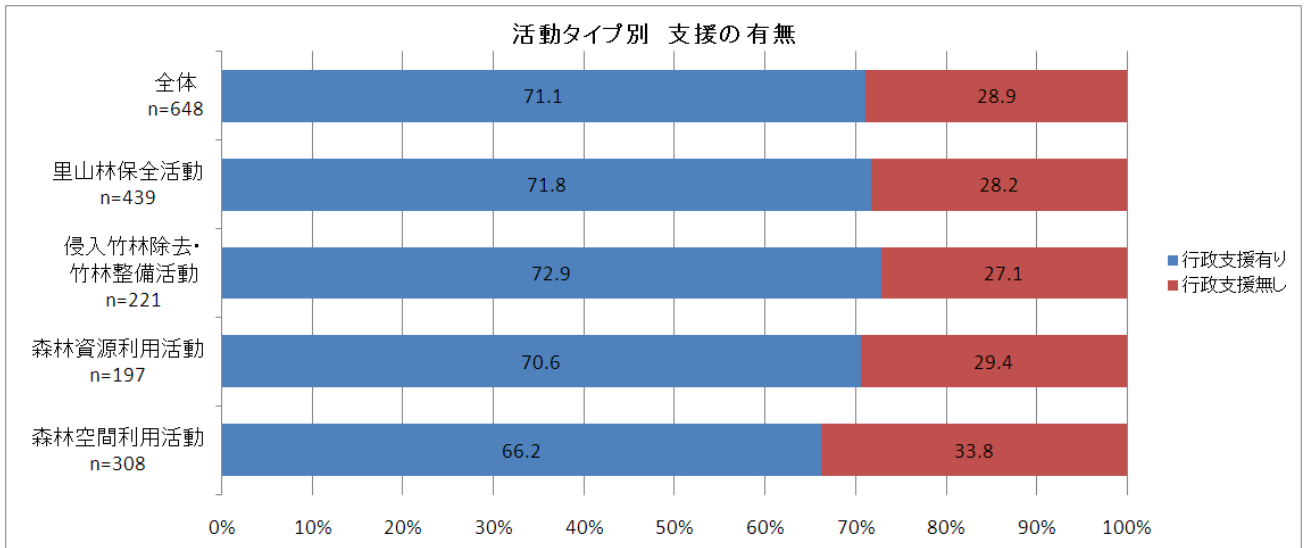


図 2-2-4 活動タイプ別にみた行政やその他の支援状況(「調査」問5)[単数回答]

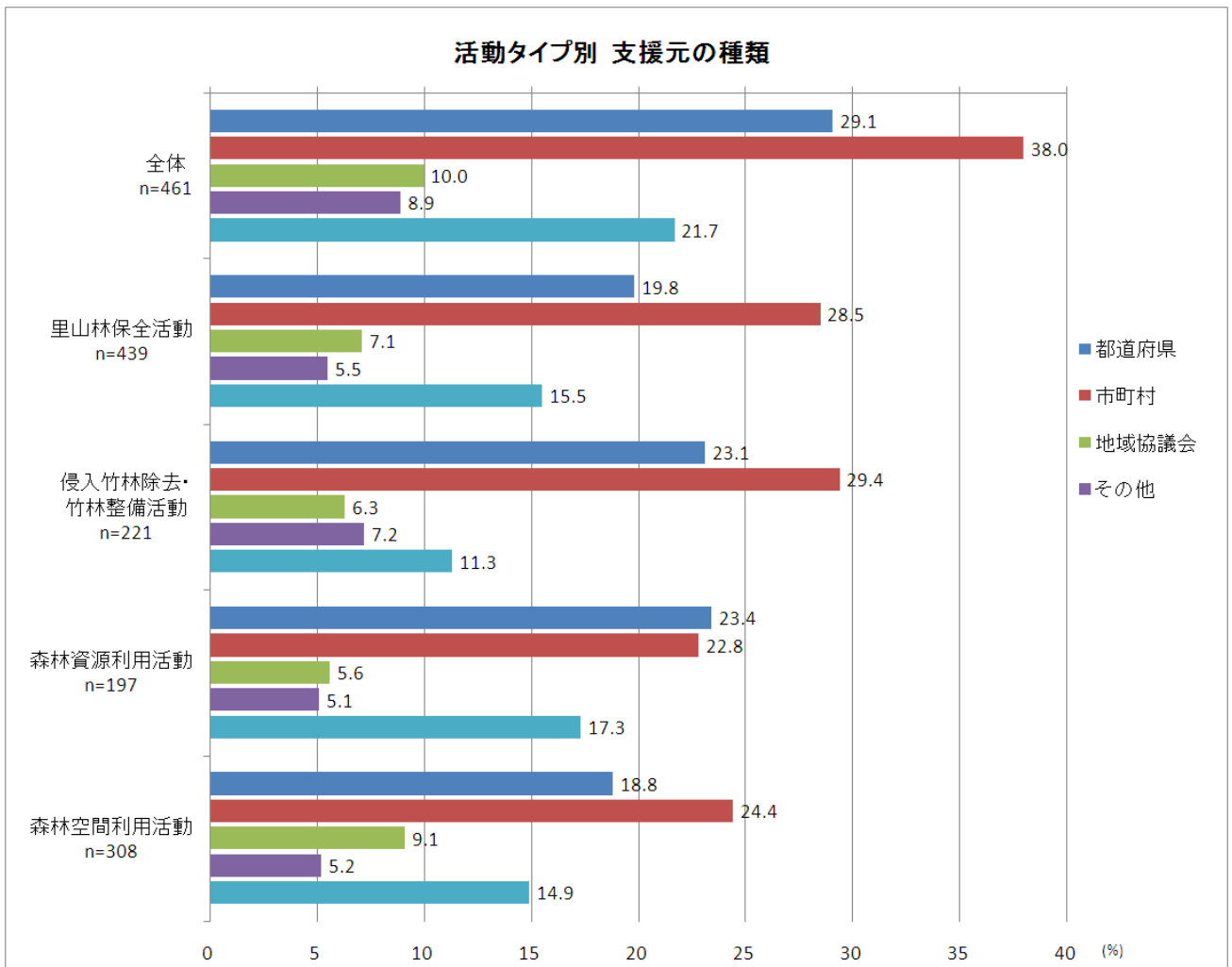


図 2-2-5 活動タイプ別にみた支援元の種類(「調査」問5)[複数回答]



## 2-5 団体が期待する活動の効果

- ・地域活動団体の活動によって発揮が期待される効果（森林・山村の多面的機能の強化）について、どのようなものを期待しているかをみると、全体では、「効果が大きい」と考えている上位回答は、景観の保全・修復に関する効果(55.4%)が最も多く、次いで環境教育や自然体験、森林療法の場等の活用(39.7%)、共通の目標や共同作業等による住民間のつながり再生(33.8%)となっている(図2-2-6)。
- ・「効果が大きい」、「ある程度効果あり」を合わせた肯定的評価でみると、先述の3つの効果に加え、里山林荒廃の改善による自然災害防止(あわせて、80.3%)に期待が高い(図2-2-6)。
- ・活動タイプ別の特徴としては、侵入竹林除去・竹林整備タイプで里と集落の境界の再生による獣害防止に対する「効果が大きい」と期待する回答が多い(22.5%)(図2-2-9)。
- ・森林資源利用タイプでは、薪、炭焼き等の木質バイオマス資源の利用促進(54.5%)が高く、また、侵入竹林除去・竹林整備活動では、森林資源の利活用(31.3%)が高い(図2-2-11、12)。
- ・森林空間利用タイプでは、里山林荒廃の改善による生き物にぎわいの再生(22.8%)、環境教育や自然体験、森林療法の場等の活用(59.5%)、企業や大学、都市住民との新たな交流の機会の拡大(29.7%)へ期待する回答が多い(図2-2-8、15、16)。

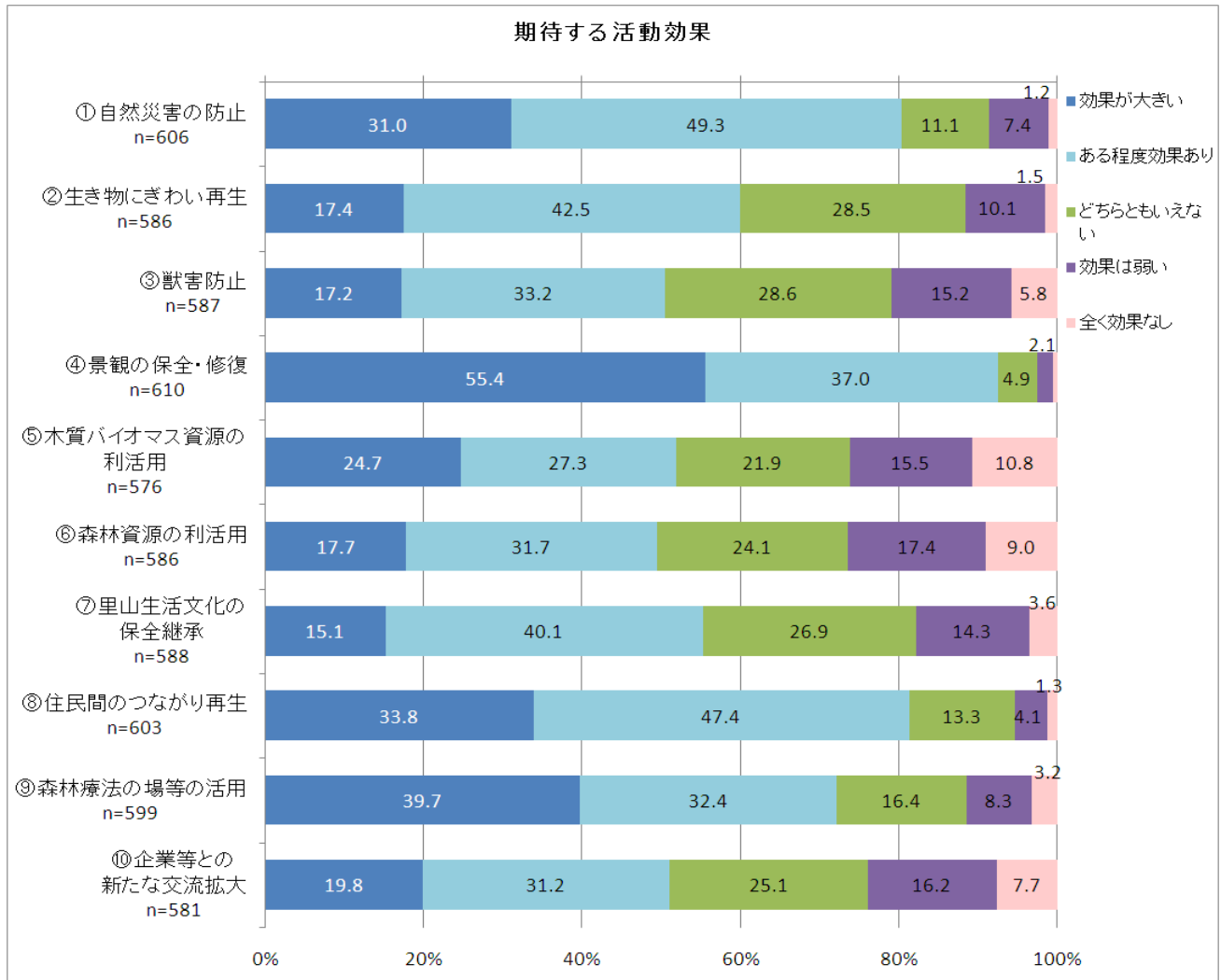


図2-2-6 団体が期待する活動の効果(「調査」問3①～⑩)[単純集計]

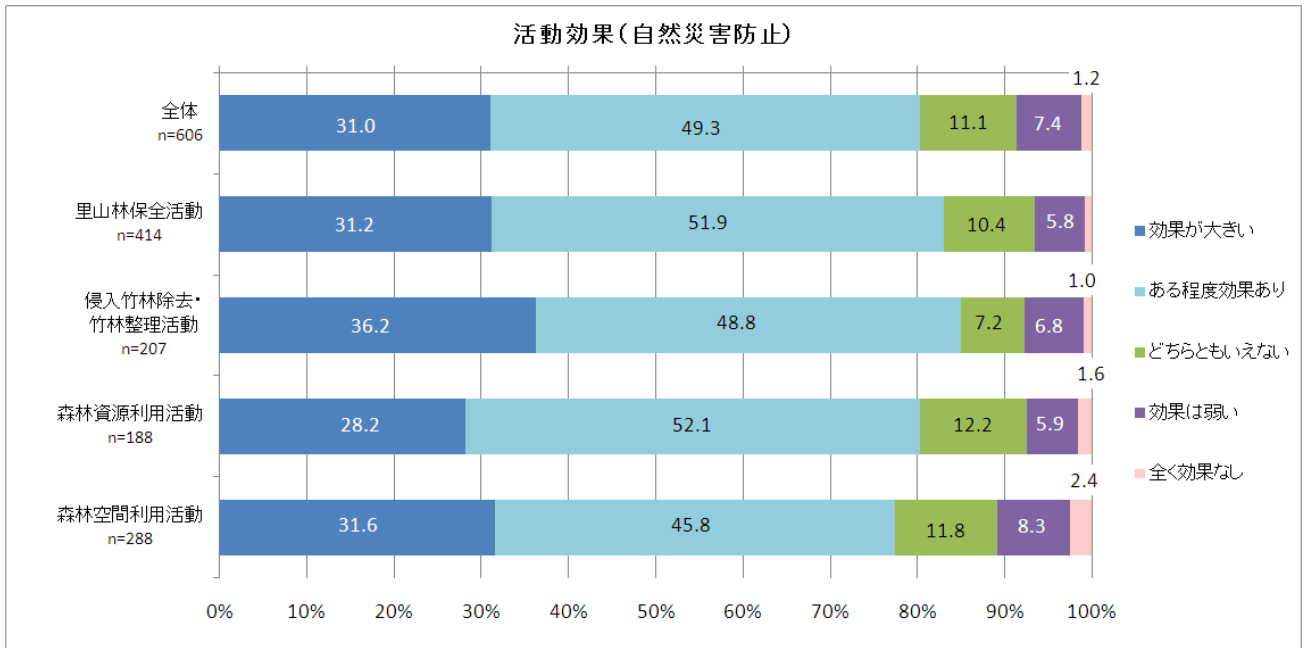


図 2-2-7 活動タイプ別にみた「自然災害の防止」効果への期待 (「調査」問3①)[単数回答]

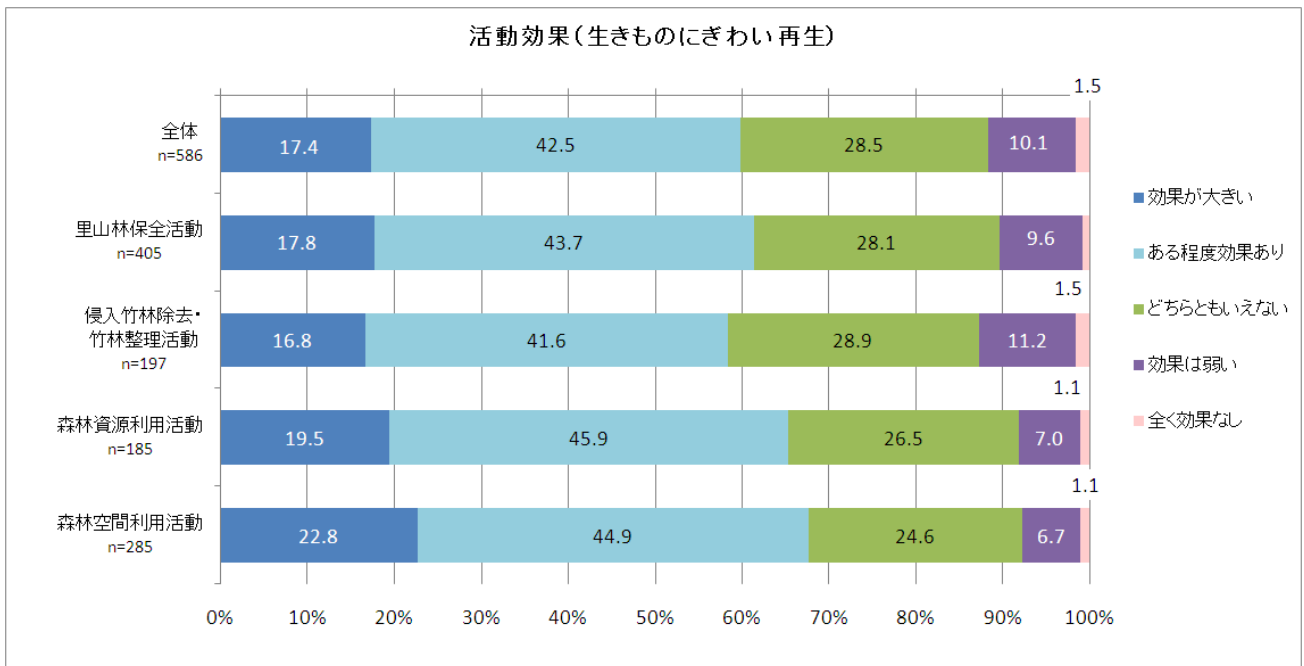


図 2-2-8 活動タイプ別みた「生きものにぎわい再生」効果への期待 (「調査」問3②)[単数回答]

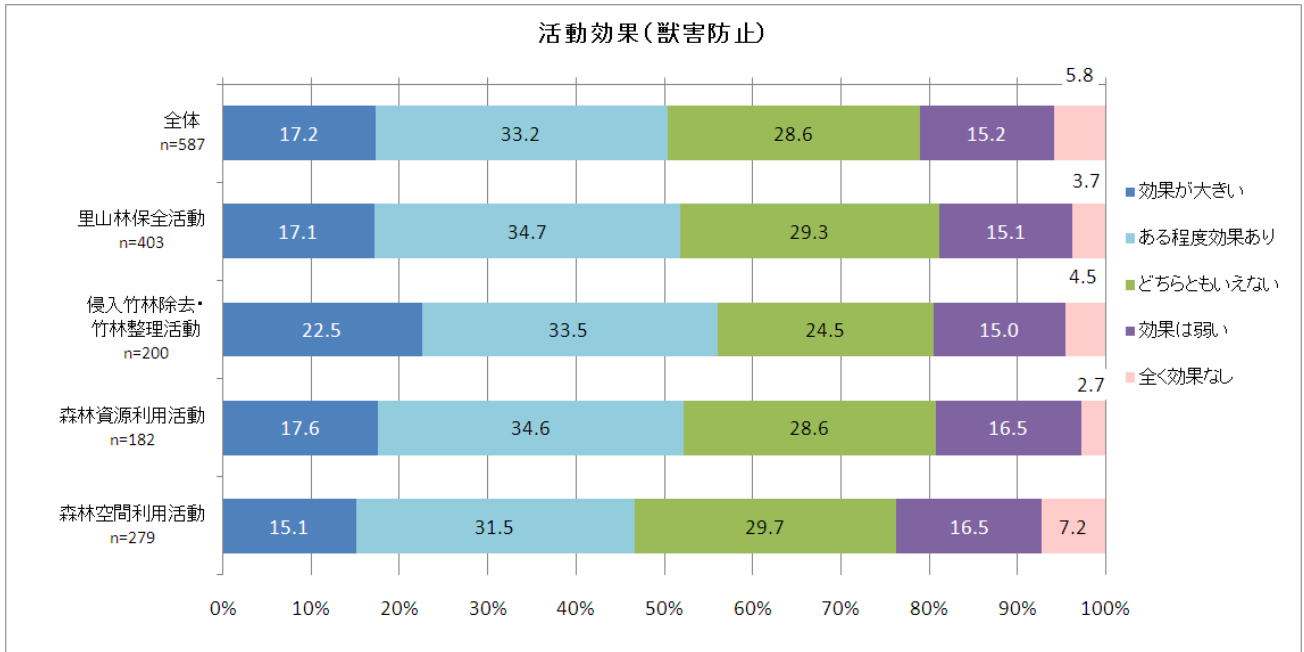


図 2-2-9 活動タイプ別みた「獣害防止」効果への期待(「調査」問3③)[単数回答]

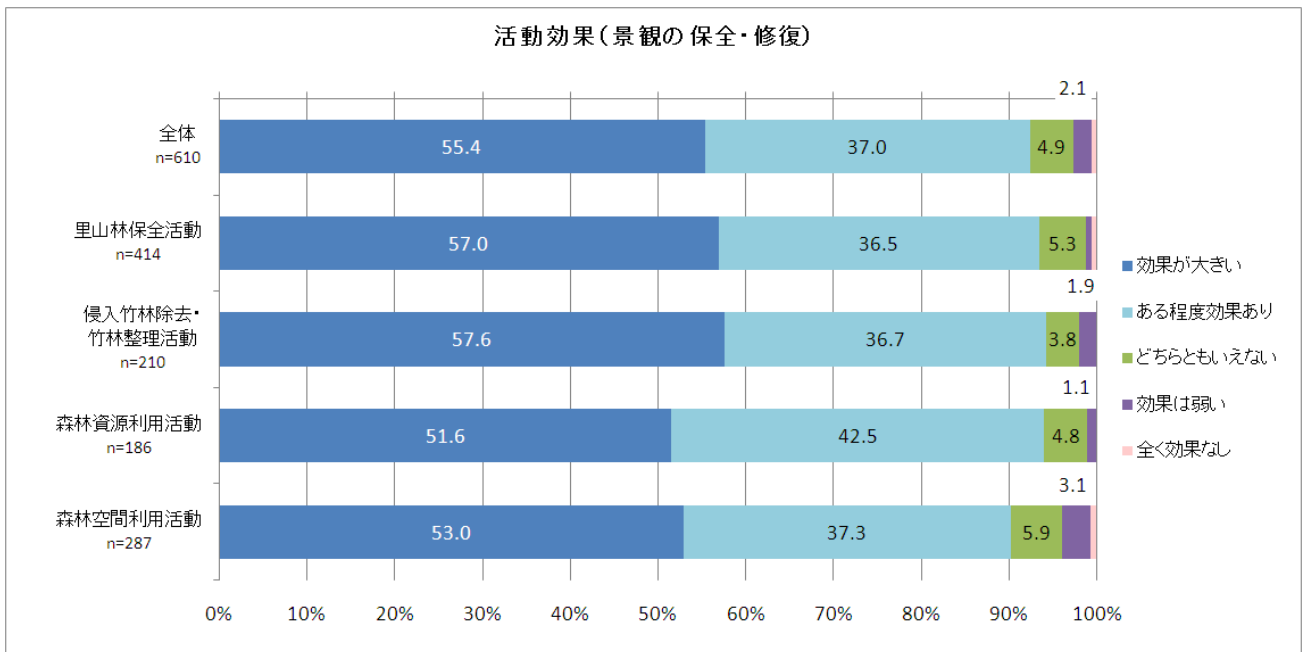


図 2-2-10 活動タイプ別みた「景観の保全・修復」効果への期待(「調査」問3④)[単数回答]

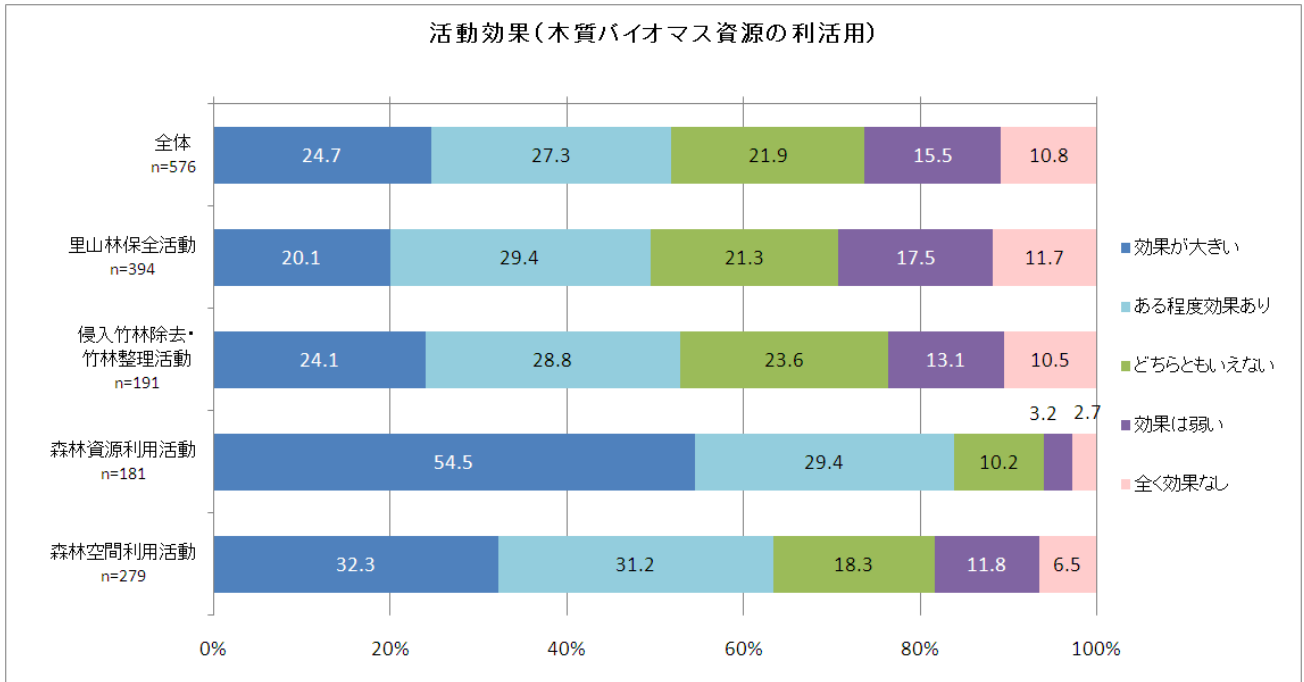


図 2-2-11 活動タイプ別みた「木質バイオマス資源の利活用」効果への期待(「調査」問3⑤)[単数回答]

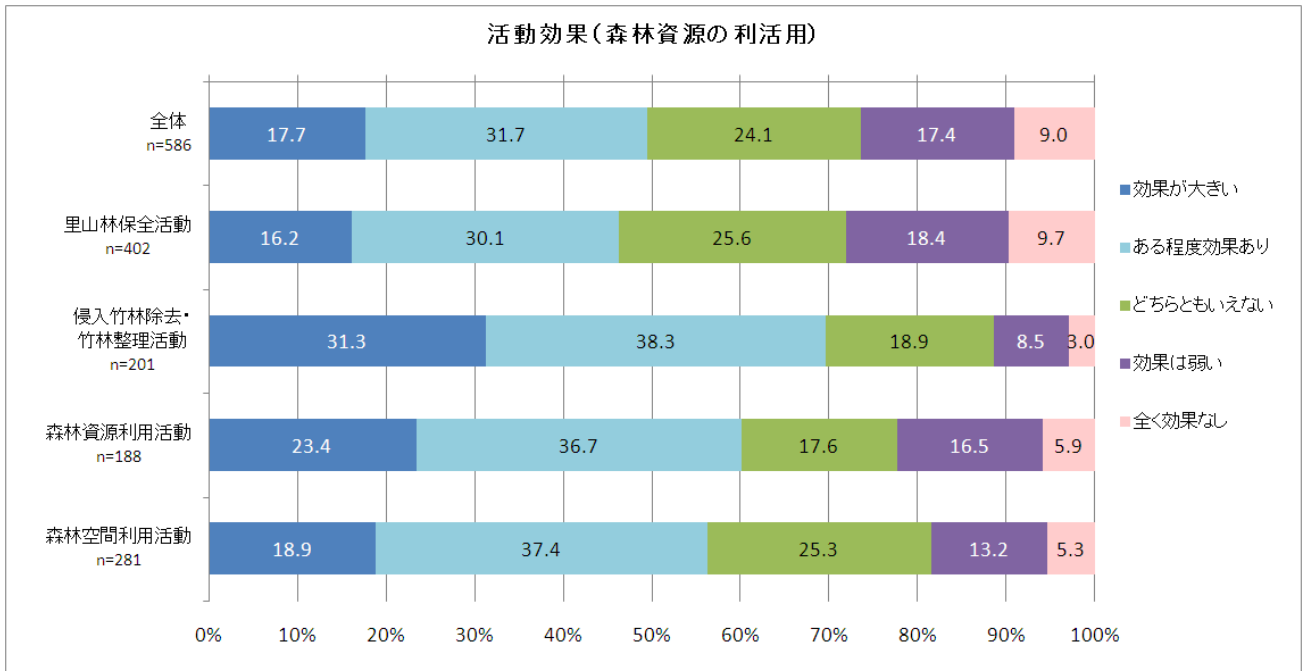


図 2-2-12 活動タイプ別みた「森林資源の利活用」効果への期待(「調査」問3⑥)[単数回答]

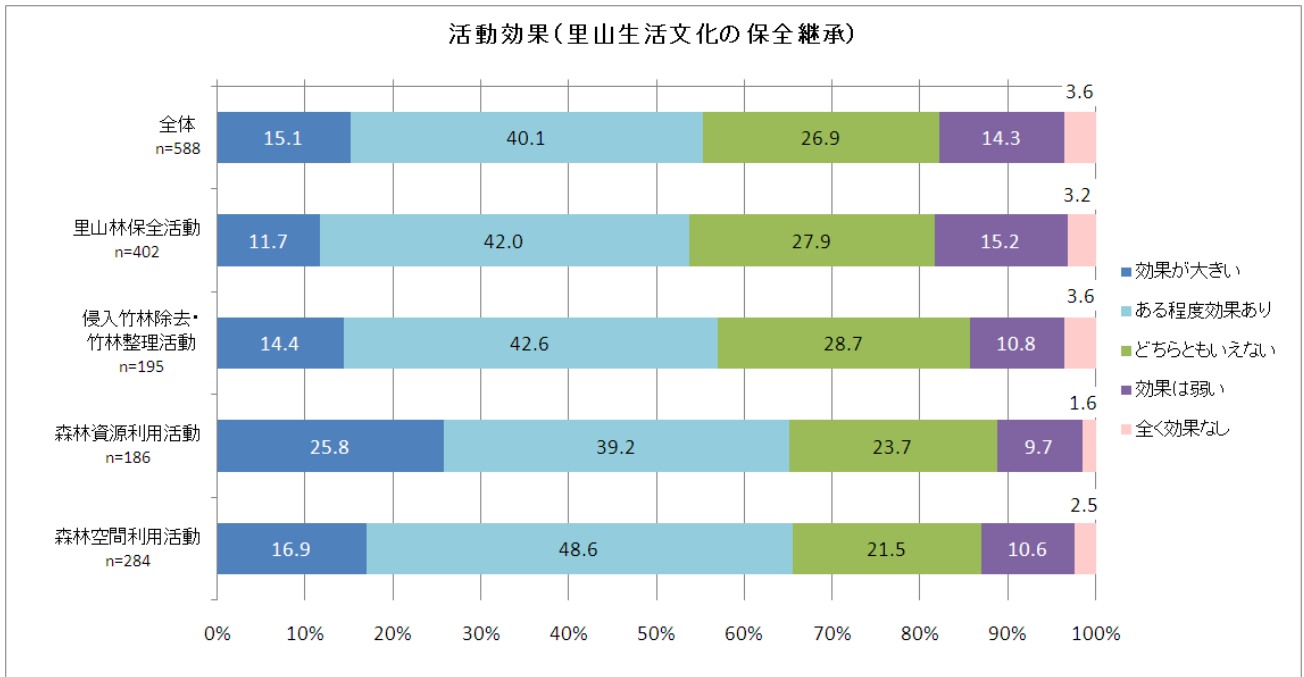


図 2-2-13 活動タイプ別みた「里山生活文化の保全継承」効果への期待(「調査」問3⑦)[単数回答]

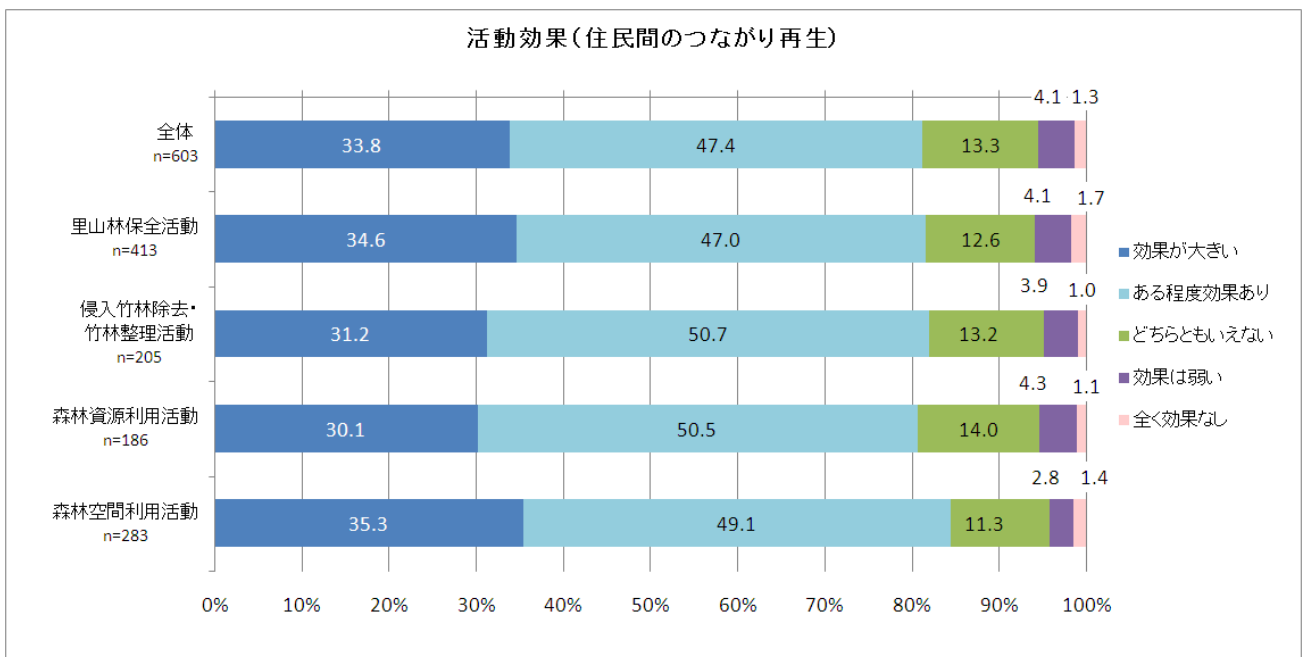


図 2-2-14 活動タイプ別みた「住民間のつながり再生」効果への期待(「調査」問3⑧)[単数回答]

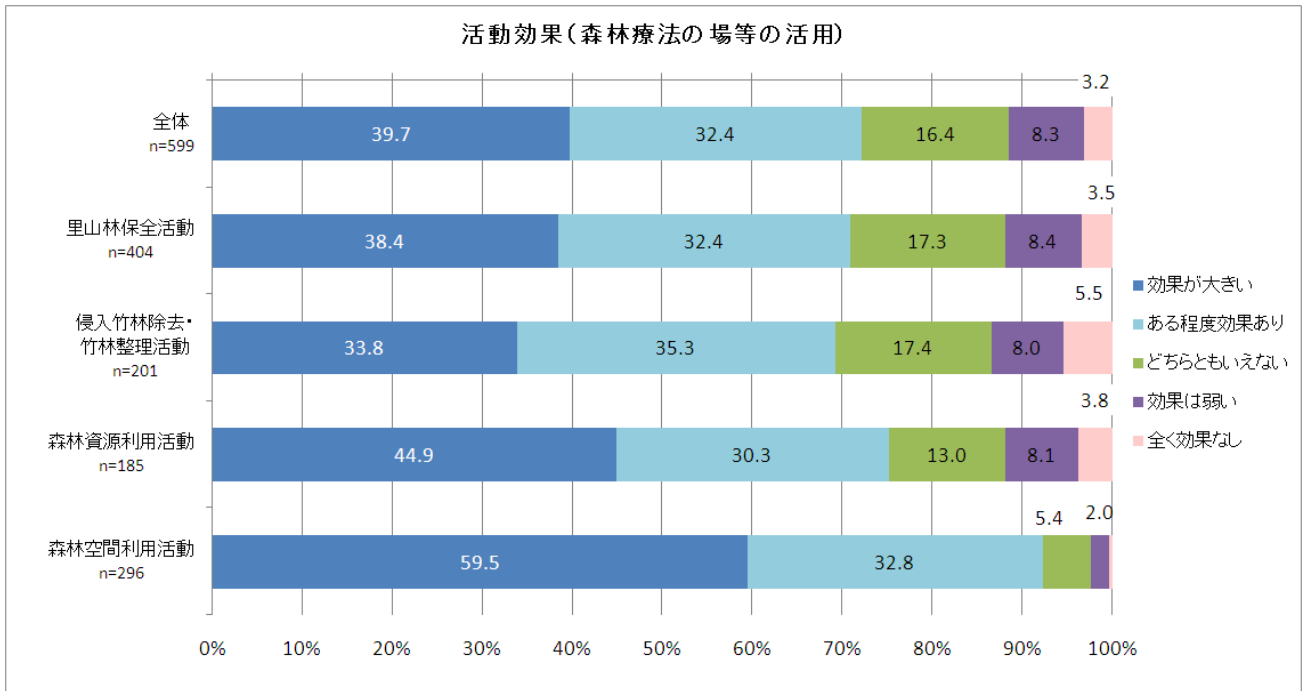


図 2-2-15 活動タイプ別みた「森林療法の場等の活用」効果への期待(「調査」問3⑨)[単数回答]

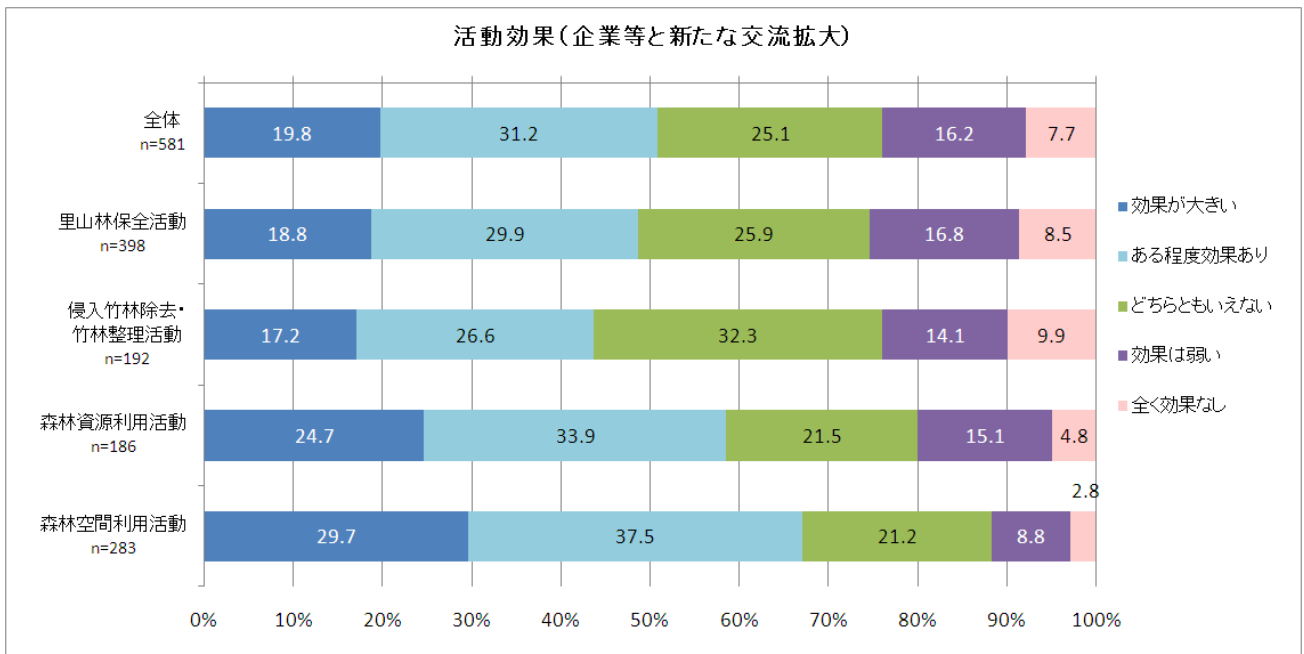


図 2-2-16 活動タイプ別みた「企業等との新たな交流拡大」効果への期待(「調査」問3⑩)[単数回答]

## 2-6 本事業に対する活動団体の評価

・本事業は、地域活動団体からその必要性を高く評価されている。とても必要性が高い（55.1%）、必要性は高い（42.1%）を合わせて 97.2%となっている。活動タイプ別も、全体と同様の傾向にあり、森林資源利用活動を申請する団体からは、他のタイプの活動よりもやや高め必要性を評価されている。

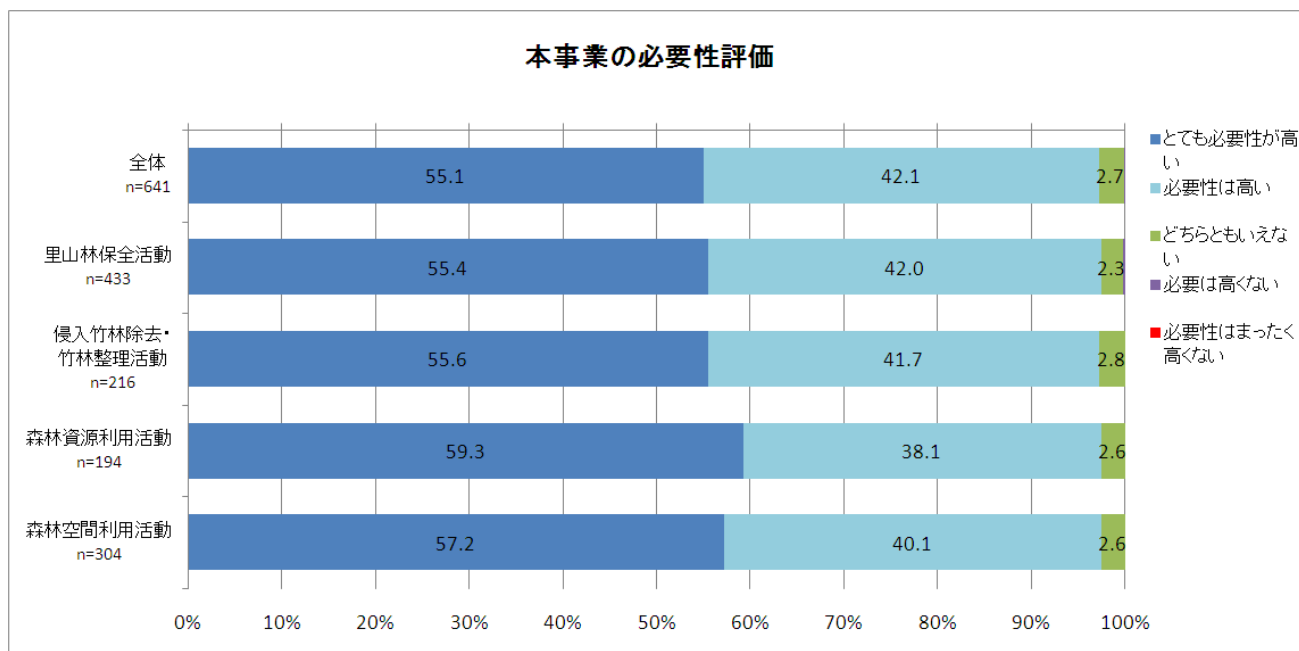


図 2-2-17 活動タイプ別にみた本事業の必要性に関する評価(「調査」問7)[単数回答]

